



ふじ美が原

富士見中学校

平成23年10月12日

前期終業式

人間の人間らしい

尊い価値とは。

校長先生のお話

四月四日に始まった前期は、昨年度三月に起こった東日本大震災及び米村を震源とした長野県北部地震に関連した、多様な出来事に対して、私たち一人一人の対応が問われることがたくさんあった学期でもあったような気がしています。

その対応の一つとして、生徒会での被災地の皆さんへの義援金を贈る、また、文房具を贈る活動の取り組みがありました。この取り組み一つをとってみても、すぐに具体的に動いた生徒会とそれに答えた全校生徒の皆さんの姿は、物事を真剣に考え、実践に結びつけられる素晴らしい力を持っていることを確信することができました。

九月下旬に、皆さんが提供してくれた文房具を贈ることを、宮城県の女川第一中学校の大内校長先生に始めて電話をし、皆さんの鉛筆一本、消しゴム一個に託した気持ちを伝えました。校長先生は、「本当にありがたい。ものが無い中で、鉛筆一本が、シャーペンの芯一本が、本当に貴重なんです。…」と、私に語ってくれました。

また、今日の朝、女川第一中学校の校長先生より、文房具と千羽鶴が届きましたというお電話をいただきました。丁寧に分類された、文房具を見て、また感激をされたこと、本当に温かいお気持ちがありがたいとお言葉をいただきました。近藤生徒会長さんを始め、全校生徒の皆さんに本当に「ありがとう」ございましたと伝えていただきたいとの伝言もいただきましたので、お伝えをします。

皆さんの、思いが、女川の小学生、中学生の皆さんに届いています。ありがとうございしました。

また、「ニュージールランドより預かってきた、千羽鶴も快く受け取っていただくことができました。学校で一番広い場所である、昇降口に飾るそうです。

前期、百四十一名の一年生の皆さんを迎え、四百二十七名で二年目の富士見中学校が発しました。三年生の修学旅行をかわきりに、日々の教科学習、生徒総会、運動系、文化系部活の各種大会、宿泊学習、八ヶ岳登山、前期のまとめとして素晴らしい成果を残した白鈴祭等々、全てを挙げることは出来ませんが、皆さんは、多くの行事や実践を積み重ね、一回りも二回りも成長したことを思います。どうでしょうか。

一年の窪田貴明君は、入学当初は、なかなかクラスが団結というところまではいけなかったが、日を重ねるとともに団結できるクラスになった。その結果が、白鈴祭の大縄跳びで、練習では十四回だったのが、本番で二十八回も跳べた。この団結力を継続させたい。二年の櫻本李枝さんも、白鈴祭での大縄跳びにふれて、練習では、結果の出せる回数が増えた時もあったが、本番では結果を出すことが出来なかった。でも、クラスの団結力が深まった。この力を大切に、後期の合唱祭、生徒会活動を頑張りたい。

三年の樋口諒太郎君は、白鈴祭も含めて、生徒会活動を副会長という立場の中で企画や運営に携わってきた。不安はたくさんあったが、友達や親、地域の方々の多くの支えがあったからこそ、いろいろな思い出をつくることができた。更に、感謝の気持ちを忘れずに、生活をしていきたい。

と語ってくれました。それぞれの学年の代表の皆さんが、前期を振り返り、心の糧となった実践や事柄、そして

て、明日からの更なる確かな実践の方向を堂々と示してくれました。充実した生活の様子があががわれました。ありがとうございました。

一つの行事を成し遂げるには、その行事の目的を定め、それに沿って企画をしたり、準備をしたり、進行を考えたりします。それらの仕事や活動を通して、チームワークの意味を理解し、また、価値を、自分の体を通して理解していきます。やり遂げたという達成感、満足感もあれば、まだまだという不足感を感じている人もいます。また、「失敗してしまつたな」と悔いを持っている人もいるかもしれませんが。

私たちは、何か一つの仕事や活動が終わつてしまつと、やれやれという気持ちで、何となくすべてを忘れてしまいたくなるものですが、物事は結果のみならず、そこに至るまでの過程、途中の経過がどうであったかということも重要になります。

その過程に眼を向けて、自分の気持ちや、自分がした仕事や活動、役割を謙虚に振り返ってみることも大切なことだと私は思っています。

人間の人間らしい尊い価値は、自分の考えや行為をもう一度じっくりと見つめ、考え直し、工夫ができるということにあります。成果の部分は成果として自信を持つてください。もし、反省や改善すべきところ、工夫の余地があったとすれば、その反省や改善、工夫の余地に対して、自らに問い、次に生かすことを是非、忘れないでください。

本当に頑張った前期でありました。ちよつとですが、三連休に一日休みを付け加え、四日の休みにしました。一日ですが、されど一日。後期登校日一〇一日の心構えをつくる、有意義な一日にしてもらえれば幸いです。

中体連新人戦壮行会

応援メッセージ

教頭先生のお話

選手の皆さん。いよいよ新人戦ですね。皆さんが先輩方からチームを引き継いで、初めての公式戦となりますね。活躍を期待しています。特に二年生の皆さんにとっては、これまでは困ったとき前を見ると先輩の背中があったと思います。頼りになる先輩がいてくれたわけですが、この戦いからは、今度は皆さんが先輩として後輩に背中を見せながら引張っていくことになると思います。頑張ってください。

さて、私は皆さんにその新人戦に持って行って欲しいものが三つあります。

一つは「絶対勝つぞ」という熱い心です。チームを引き継いでから、暑い夏の苦しい練習を経てこの新人戦にたどり着きました。それはどのチームも同じだと思えますが、だからこそ、より熱い心を持ったチームが勝っていくことになると思います。決して弱気にならず、最後まで勝負を捨てない熱い心を持って試合に臨んでください。

持って行って欲しいものの二つめは、冷静な頭脳です。戦いに熱い気持ちは欠かせませんが、そればかりだと時に空回りをしてしまうことがあります。相手や自分のチームが、あるいは自分自身が今どういう状況なのかを冷静に見つめる「冷たい頭」もぜひ持って行って下さい。

三つめは、富士見中生としての誇りです。開校以来二年、先輩方はスポーツを行う者として試合の場面でも、試合のない場面でも、賞賛される態度、マナーで大会に臨んでいただいています。スポーツマンとして、富士見中の代表としてさらに素晴らしい行動を期待しています。

暑い夏を乗り越えて、新人戦があります。そしてやがてくる寒い冬のむこうには、夏の大会が待っています。夏の戦いにつながるいい戦いになることを期待しています。

一年四部 仲田 梨紗さん

いよいよ新人戦ですね。三年生の先輩方が引退してから初めての大会です。

今日まで厳しい練習や苦しい練習を積み重ねてきたことでしょう。きつと、今、皆さんはとも緊張していると思います。私も大会を経験しているので、その気持ちがよく分かります。

私は、いつもレース前に、今までしてきた練習を振り返り、自分のレースのイメージを立ててスタート台に立っています。そうすると、自信がわいてきて、楽しい！と思えてきます。それは、今まで苦しい練習を積み重ね、頑張ってきたからだと思います。

ですから、緊張に負けず、自分を信じて、仲間を信じて、悔いの残らないように、全力を尽くしてきてください。

一年生でこの新人戦に出場する人は、特に緊張も不安も大きいと思いますが、今、自分が出せる精一杯の力を出し切り、緊張を自信に変えて、思い出に残るような大会にしてください。

皆さんの活躍を心から応援しています。

二年三部 白鳥竜暉君

いよいよ新人戦です。これまで苦しい練習をしてきたと思いますが、苦しさを乗り越えてきたからこそ、今の皆さんの姿があると思います。

二年生が先頭に立っての初めての大きな大会をいよいよ迎え、新たなスタートを切ります。

どの部活も全力を尽くし、これまでの練習の成果を出し切り、富士見中学校の伝統となるような熱い戦いになることを望んでいます。

精一杯応援しています



三年一部 西村 峻彦君

僕たちが引退してから、まずはこの新人戦に向けてつらい練習を毎日がんばってきただけです。

時には、「つらい」「もうやりたくない」と思ったことがあったかもしれませんが、でも、それを乗り越えてきたからこそ、この大会はきつと勝てると思います。

悔いの残らないように全力で戦ってきてください。

僕たちも応援しています。

(終業式の意見発表者の意見文は次号でお知らせいたします。)

前期が終了しました。保護者の皆さんには、学校行事をはじめ、各学年の行事、また、日頃の学校生活までさまざまな形でご理解、ご協力をいただき、本当にありがとうございました。

後期が12日より始まります。前期の活動が実を結ぶ学期でもあります。引き続き、よろしくお祈りいたします。

富士見町立富士見中学校

諏訪郡富士見町富士見4654番地

TEL 0266-62-2009

FAX 0266-62-7409

伊藤十三雄

